

日本農学アカデミー第5回シンポジウム(案) 「食の安全性を科学する」

本シンポジウムでは、「安心して食べられる安全な食品」とは科学的にはどのように考えれば良いのかについて専門家が解説し、その後参加者を含めて討議する。まず「安心」と「安全」の考え方に関する基礎的概念である危険(リスク)の分析と管理とは何かについて明確にする。これらの基礎的概念にもとづいて、消費者、生産者、流通者、全行政者などが食品の安全と安心に関して取るべき望ましい態度とは何かについて考える。さらに、絶対安全、絶対安心、絶対健康的な食品はあり得るのか、無いとしたらどのような態度をとるべきなのかについて考える。これらの考え方は、BSE、残留農薬、食品添加物、食品産地表示偽装、ダイオキシン、食品添加物、遺伝子組み換え食品など、あるいは有機農産物、無農薬野菜、食品トレーサビリティ(生産履歴追跡可能性)などの個々の問題を考える際の共通基盤となる。さらには食品に関する安心と安全の考え方と、環境や医療に関する安心と安全の考え方の共通点を論じる。

主 催：日本農学アカデミー

共 催：全国農学系学部長会議他

日 時：平成15年6月7日(土)午後1時半～5時

場 所：国立大学財務センター(25階建てビル)2階セミナー室
東京都千代田区一ツ橋2-1-2

講 師：中西 準子 独立行政法人 産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センター長
鈴木 建夫 独立行政法人 食品総合研究所 理事長
ほかパネリスト数名

問い合わせ先：kozai@midori.h.chiba-u.ac.jp (古在豊樹、千葉大学園芸学部)